



令和6年2月29日

東村山市立東村山第二中学校

若 樹

第249号



【校長より】

道徳授業地区公開講座及び人権講演会「感謝の授業」を終えて

令和6年2月6日（火）は道徳授業地区公開講座及び人権講演会を実施しました。参観いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

道徳授業地区公開講座は、家庭・地域と学校が一体となった道徳教育を推進することを目的として、都内全公立小・中学校等及び一部の特別支援学校において実施しています。都内全公立小・中学校等の全ての学級において、保護者・地域住民に道徳の授業を公開するとともに、意見交換会を実施し、保護者・地域住民と教員が子どもたちの課題や大人の果たすべき役割等について意見交換・協議を行うことが目的です。本校ではすべての学級で「生命の尊さ」について考える授業を行いました。どの学級でも真剣に教員の話に耳を傾け、友達と話し合う様子が見られました。1学年では谷川俊太郎さんの詩をもとに「いのち」をテーマにした詩を班ごとに作成しました。一部を御紹介します。

いのちってなんだろう

それは

平等に与えられるもの

はかなく尊いもの

とても大切なもの

小さいようで大きいもの

生きるってなんだろう

それはおながやすくこと

それは感情があること

それは人と関わること

それは苦しいことがあること

それは楽しいことがあること

それはあなたの物語

いのちってなんだろう

それは1億分の奇跡

それは感謝がつまっていること

それは自分の中の大きなもの

同日に行われた人権講演会では、いのちの授業講演家の腰塚勇人先生にお越しいただきました。腰塚先生は中学校保健体育科の教員の頃に大きな事故に遭い、一生寝たきりか車いすの生活になるとの診断を受けましたが、見事に社会復帰を果たして現在は講演家として活動しています。本校で講演していただくのは3年目になりますが、今回は前日に降った雪のせいで高速道路が閉鎖されたため朝の6時には家を出て二中に向かってくださったとのことでした。腰塚先生の「伝えたい!」という熱い思いに心を打たれます。腰塚先生はいつも講演の準備をしながら「嬉しいなあ。」「二中の生徒にまた会えるのが楽しみ。」と前向きなことをおっしゃるので、周囲の私たちも元気になります。腰塚先生は講演の中で「なくなったら困るものを思い浮かべてほしい。その中に『自分』は含まれていただろうか。周囲の人やものはもちろんだけど、何よりも『自分』を大切にしよう。」と語ってくださいました。また能登半島の地震の被害にも触れ「当たり前は誰かの、何かの努力・行動があるから続いている。」とも教えてくださいました。生徒たちはこれからの人生の中で、腰塚先生の前向きな姿勢と言葉を折に触れて思い出してほしいと思います。

この日の取組だけではなく、家庭・地域と学校の日々の小さな積み重ねが「いのち」と「こころ」を大切にする姿勢を育てていくのだと思っています。今後も本校では「一人一人を大切にしたい学校」を目指し、様々な活動の場面で「いのち」と「こころ」を守ることを指導してまいります。

【地域人材・活用推進事業発表会】

八組では、東京都教育委員会による令和5年度地域人材・活用推進校の指定を受け、総合的な学習の時間を中心に「マインクラフトの活用による生徒のまちづくり参画に向けた授業実践」を行ってきました。2月22日の発表会では、東村山駅の高架化と再編計画に基づき、東村山市の中心部である東村山駅周辺の魅力的なまちづくりをテーマに、生徒たちがデジタル空間に生成したアイデアを保護者や地域の方々にプレゼンテーションしました。施設を作る際には、どの年代もどのような人でも住みやすいように様々な視点からアイデアを出していきました。発表には、多くの方々に参観していただき、生徒も緊張している様子が見られましたが自分たちの一年間の学習の成果を堂々と発表することができました。当日、御来校いただきました地域の方、保護者の皆様、ありがとうございました。



【学校生活の様子】

道徳授業地区公開講座（2月6日）



人権教育講演会（2月6日）



八組 劇と音楽の会（2月9日 東久留米市立生涯学習センターまろにえホール）



※学校便り「若樹」のカラー版（HP用）には、生徒の個人名等は記載していません。